



TITLE:

政治現象の本質(一)

AUTHOR(S):

恒藤, 恭

CITATION:

恒藤, 恭. 政治現象の本質(一). 経済論叢 1924, 18(2): 415-428

ISSUE DATE:

1924-02-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/128130>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號二第

卷八十第

行發日一月二年三十正大

論叢

地租の轉嫁

法學博士 神戸 正雄

政治現象の本質

法學士 恒藤 恭

海運の獨占より生ずる弊害

法學士 小島昌太郎

世界經濟の意義

法學士 作田 莊一

鎌倉時代の土地制度

文學博士 三浦 周行

時論

爲替の大變調と對策

法學博士 神戸 正雄

說苑

名目派の貨幣論と貨幣の本質

經濟學士 中西 仁三

一子相續制度に就いて

經濟學士 八木芳之助

雜錄

マルクス說に於ける資本の起源

法學博士 河上 肇

東西金利市場の相違に就て

經濟學士 谷口 吉彦

政治現象の本質 (二)

恒 藤 恭

一 緒 言

政治現象は文化現象もしくは社會現象の一種類である。この命題は正當であるとして最初に前提して置きたい。吾々は一般に文化現象もしくは社會現象といふ概念によつて指示される諸々の現象の中に、宗教現象とか、道德現象とか、法律現象とか、經濟現象とかを更に識別するのであるが、斯く識別することが妥當であるとすれば、其根據は謂ふ所の宗教現象なり、道德現象なり、法律現象なり、經濟現象なりが、文化現象もしくは社會現象としては各者に共通なる普遍的性質を具有するものでありながら、それと同時に他者においては觀取され能はぬやうな各自の獨特なる性質を具有する點に存せざるを得ない筈である。今政治現象が文化現象もしくは社會現象の一種類であるといふ命題が肯定されるとするならば、必ずや政治現象をして他の一切の文化現象もしくは社會現象から區別されしめるやうな獨自の性質が把握し得られるのでなければならぬ。しかも斯くして把握し得られるであらう所の政治現象の獨自の性質は、其れが或は文化現象として、或は社會現象として具有するところの性質によつて制約されるものであると同時に、斯かる獨自

の性質を具有するの故を以て、政治現象は能く文化現象たり又は社會現象たり得るのでなければならぬ。

政治現象の本質は從來論理的に十分闡明されて居るとは言ふことができない。政治の意義の何たるかについて、常識及び學説は種々なる解釋をあたへてゐるが、その多くは、政治現象の本質を自覺的に考察した上で規定された所の意義を念頭に置いてゐるものとは思はれない。從來常識及び學説において考へられてゐる政治現象の意義を、政治現象の歴史的意義と呼ぶこととするならば、吾々は政治の意義の何たるかを明確に理會するためには、政治現象の歴史的意義を顧慮しながらも、それに囚はれることなく、自由なる態度を以て政治現象の論理的意義を問題とし考察しなければならぬ。以下の考察は、政治現象の論理的意義の把握といふ困難なる問題を全般的に取扱ふものではなく、唯或る觀點を求めて、其れからして政治生活を見渡すことにより、政治現象の本質を洞察するための手がかりを獲得しやうと試みるものに過ぎないのである。

二 政治現象と政治科學

政治現象の論理的意義を理會せむとするに當つて、吾々は如何なる現象をば政治現象なりとして捉へ來り考察の對象となす可きかについて、一定の見當を立て得なければならぬ。この見當づ

けは先づ政治現象の歴史的意義の考慮によつて求められる外はない。素より政治現象の意義を論理的に認識し得た後において初めて吾々は、如何なる現象を指して政治現象たるものと言ふ可きかを會得し能ふわけであるけれど、事實上は從來名義上政治現象として目せられてゐるものに着眼し、その構造なり性狀なるを考察することに依り、政治現象の本質の何たるかを洞察し得るのである。

一般に認識の問題についてカントによつて確立された批判哲學の見解を肯定するならば、先驗的認識主觀の定立する認識目的とは沒交渉に其れ自身に政治現象が政治現象としての屬性を具備しつゝ存立するものとは、思惟することを得ない。だから傳來的に政治現象たるものとして目せられて居る現象の一團を取り來つて、それらの現象の考察に依り政治現象の本質を理解せむとするに際しても、認識の對象としての政治現象が認識主觀に向つて提示する所の内容が、後者によつて把握されるとき、如何なる認識目的が満足され得るものであるかと云ふこと、逆に言へば認識主觀が一定の對象を政治現象として認識する場合に如何なる認識目的によつて導かれるのであるかと云ふことを問題とする見地を、恒に保持しなければならぬ。しかるに經驗の世界にあたへられる諸々の現象を認識するに當り、一旦定立された見點の動搖を來すことなく、一定の認識目的を貫徹せむとする態度を持するのは、科學的認識の本領に他ならぬ。それ故、政治現象につい

て言へば、政治現象が政治現象として認識されるのは、政治學的認識の立場においてたる可きである。そして斯かる認識の立場から、一定の現象は政治現象として一義的にその特性を規定される可きであり、數個の認識の見點の介入を嚴に排斥しなければならぬ。

廣義において政治學と呼ばれる所の科學の中には、固有の意義における政治學の外に、政治史とか、政治學史とかが包含され、更には特殊的政治學としての行政學、財政學、外交政策學、經濟政策學、社會政策學、教育政策學、殖民政策學、都市政策學などの様な諸科學が包含される。

そして既に事實上成立してゐる政治的科學としてなほ此他に幾多の科學を舉示し得べく、また其れ以外に幾多の科學の新たに成立し得る可能性が存するであらう。これらの諸々の科學が單に便宜上又は因襲上偶然的に政治的科學と呼ばれるものであるとすれば兎も角、斯く呼ばれることには何等か一貫せる論理的理由があるとすれば、認識目的に關して此れらの科學に共通なる志向の存することが、その理由たる可き筈である。したがつて此れらの科學の對象たる所の諸々の現象が、一面には他と異なる特有の性狀をもつものではありながら、他面には互ひに共通せる普遍的性狀を示すものたることが、あらかじめ推測しえられるわけである。

政治の意義の何たるかが理會され、如何なる現象がまさに政治現象として認識される可きであるかが明かとなつた上は、經驗の世界において政治現象が成り立つて居ると思惟される限り、そ

の範圍の全體に亘つて政治的科學の認識は可能たる可きわけであるが、種々の經驗的實際的事情のために、斯かる論理的可能性に應じてさうした範圍の全體を通じて政治的科學が發生するものではなく、事實上はその一部分についてのみ個々の政治的科學は成り立つのである。しかも政治現象の論理的意義を理會するために、吾々はすでに事實上成立せる政治的科學の考察對象たる所の現象の範圍にのみ視野を局限すべきではなく、論理的にはなほその以外に十分に科學的認識の及び得る範圍の存することを念頭に置きつゝ、視野の限界を按排することを要するのである。

政治現象は文化現象であり、社會現象であると前提するときは、それに照應して、政治現象を考察する科學としての政治的科學が、文化科學たり、社會科學たることをも亦前提せざるを得ない。而して特殊の文化科學なり、特殊の社會科學なりの性質の理會は、文化科學一般もしくは社會科學一般の性質の理會を豫想するものである以上、政治的科學の性質についても同様の過程をふまなければならぬわけであるが、茲では主として政治的科學は文化科學の一種別であると思ふ見點を持しつゝ政治現象の認識を問題としたいと思ふ。

三 政治現象と國家現象

政治現象の本質を考察する上の見當を立てるために、普通に如何なる對象が政治又は政治的な

る語を以て指稱されて居るかを檢べて見るに——或は政體、政府、政治組織、政權であるとか、或は君主政治、民主政治、專制政治、立憲政治であるとか、或は階級政治、武斷政治、金權政治であるとか、或は政治問題、政治運動、政治教育、政爭、政治的革命、政治的訓練であるとか、或は政治的結社、政黨、政治的集會、政談演説であるとか、或は政治家、政務官、執政者、政論家、政黨員であるとか、或は政道、政略、政見、政綱、政治思想、政治學說であるとか、或は國政、自治政、家政、黨政、宗政であるとか、或は外交政策、財政政策、宗教政策、軍事政策、刑事政策、工業政策、交通政策であるとか、或は政治季節、政治界、政治生活、政變、政情であるとか云つた様な多種多様な對象を列擧する事が能きる。此れらの對象が如何様に整理され、分類され、系統づけられる可きであるかといふ問題は別論として——此れらの對象を通觀するとき、普通に政治又は政治的な語を以て指稱される對象の多くが『國家』に關係ある對象たる事を知るのである。若しもかやうな事實が正しき論理的關係を反映するものであるならば、政治現象はおそらく國家現象と合體するものたる可く、政治現象なる概念と國家現象なる概念とは異名同義の概念たるであらう。それに伴うて政治學と國家學とは同一の學問であり、政治的科學は即ち國家的科學たる事となるであらう。或はさうで無い迄もが、政治現象は國家現象の中の一種別たるべく、政治現象の存立は國家現象一般の存立を豫想することによつてのみ可能とされる事となるであらう。

國家現象と政治現象とを同一視する見解、又は國家の概念は政治の概念を制約するとなす見解は、むしろ今日學界において普通に——或は意識的に、或は無意識的に——承認されてゐる見解たるやうに思はれる。斯かる見解の發生し且つ存續し來つた原因を成すものとして、國家を以て社會生活における諸種の努力の最高の目標となし、社會生活の存在の目的を一般に國家の見地から規定しやうとする所の國家主義的思想とか、國家を以てその實在的性質上他のあらゆる社會的集團とは根本的にその性質を異にする集團たるものと認める思想とか、政治學又は政治的科學が國家生活の實用上の目的のために發生したものであると云ふ事情とか、國家が社會生活において事實上極めて顯著なる地位と甚だ絶大なる社會的勢力とを有し、社會の構成員一般にとつて最も深き利害關係を有する團體であると云ふ事情とかを擧げることが能きであらう。

社會を経験的實在として考察する見地において、國家を以て社會における他の團體とは全然性質を異にし比較を絶する所の團體たるものとみとめる見解は、吾々の經驗する社會的事實の真相に合しないものとして斥けられる可きであると思ふ。他方においては國家が社會における他の各種の團體に比して、より優越せる勢力を有し、より多様な機能をいとなみ、より普遍的に社會の構成員の生活と交渉する事が、普通の事實たる點は、勿論之を承認しなければならぬ。従つて他の諸種の團體に關する學問的研究に比して、國家に關する學問的研究がより重大なる實際的興味

を値ひするのが通常であると云ふこと、且つ國家の活動範圍及び活動内容が増大するにつれて、國家に關する學問的研究の材料たる事實が比較的に甚だ豊富となり、其爲に比較的に多大の學問的勞作が國家に關して爲されるのが當然であると云ふことも、躊躇することなく承認しなければならぬ。しかも此れらの事情は、國家現象をその他の團體現象から原理的に區別し、從つて國家現象に關する科學的考察とその他の團體に關する其れとを原理的に區別すべき論理的根據を形成するものではない。政治現象の論理的意味を考究するに當つて、かやうな根本的見地を明かにして置く必要があると思ふ。國家現象と政治現象とを同一視し、又は論理的關係において後者は前者によつて制約されると云ふ思想が発生したのは、事實としては如何にも當然な事柄であり、斯かる事實は政治現象の意味を考へる上に十分顧慮しなければならぬが、かやうな傳來的思想を無批判に受け容れることは、望ましい事ではない。吾々は文化現象一般(もしくは社會現象一般)の中に特に政治現象を認識することが如何なる理論的意義をもつかと云ふ客觀的見地からさうした傳來的思想に批判を加へ、以て之を採擇す可くんば採擇し、然らずんば拒否し又は修正することを敢てしなければならぬ。

四 文化現象殊に政治現象の凝聚作用

普通の議論の順序から言へば、政治現象の本質に關する傳來的學說及び是れに反對する學說を批判した上、卑見を述べる可きであるかも知れないが、茲では先づ政治現象の本質に關する卑見を述べた後、それと異なる思想を考慮する方法を探ることとし度い。

各種の文化現象を通じて、次のやうな事實が經驗的に觀取される。——同一の種別に屬する文化現象の一切は、論理的に觀て、その文化現象に特有なる本質的屬性を具備するのでなければ、恰もその特殊の種別に屬する文化現象として認識されることを得ない。かやうな論理的要求は如何なる經驗的事實によつても動かされるものではない。併しながら或る特殊の文化現象として成り立つために要求される所の條件を満足に具備するところの個々の現象が、吾々の知覺し得る實在要素を支盤として經驗の世界の内面において事實的に發生する態様を觀察するときは、或る限られた範圍の現象においては、其れをして特定の種類の文化現象として成立し得させる所の論理的要素が、その把握を可能ならしめる實在要素との關聯において極めて明瞭に、極めて純粹に現れる。之に反して他の範圍の現象においては、さうした特別の事實が觀取されず、殊に其かなり廣い範圍にわたつて、現象を成り立たしめる實在要素の性狀の影響のために、その現象の論理的性狀の把握が著しく困難となつてゐることが觀取されるのである。かやうな普遍的事實を各種の文化現象にわたつて説明することは、他の機會において試みたいと思ふのであるが——其れをば

『文化現象の凝聚傾向』又は『文化現象の凝聚作用』とよぶこととする。

文化現象一般にわたつてかやうな傾向又は作用が存するのであるから、各種の文化現象の本質を理會する目的からいつて、その特定の文化現象の成り立つ事實的範圍を遁觀し、その現象の凝聚せる部分に着眼することが、著しく便宜でもあり、適當でもあるわけである。但し其際、或る文化現象をして事實的に成り立たしめる實在的因素と、それをして思想的に成り立たしめる論理的條件とのデリケートな關聯を心して取扱はねばならぬことは、言ふまでも無い。文化現象の一種類としての政治現象についても、茲にいはゆる『文化現象の凝聚作用』を觀取することが能きる。したがつて政治現象の本質の考察の上に右に述べたやうな方法を用ひることが可能であると思ふ。

私の考へる所では、政治現象はひとり國家に關してのみならず、他の諸種の團體に關しても成立し得るのである。唯政治現象の凝聚作用が國家に關しては殊に著しく行はれてゐることが、あだかも政治現象は國家に關してのみ成立するかのような觀を呈せしめるのである。更に他の見點から政治現象の凝聚作用の所在範圍を規定するならば——一般に合議體の制度において其作用を觀取し能ふのである。そして此れらの二様の觀點からの觀察を綜合するならば、國家における合議體の活動において最も顯著なる政治現象の凝聚傾向に觸目し得るわけであり、從つて國家における合議體の活動は、吾々が政治現象の本質を論理的に把握する上に特に適當なる事實的根柢を

提供するものと考へられるのである。

極く廣い意味において政治といふときは——但し國家に關して——あらゆる國家機關の有らゆる種類の活動が、政治として現れる。この場合には、君主とか、大統領とか云つたやうな中樞的地位に立つ國家機關のなす活動も、巡查とか、兵士とか、郵便配達とか、國有鐵道の車掌とか云つたやうな末梢的地位に立つ國家機關のなす活動も、ひとしく政治的活動と考へられるのである。或は行政長官が書類に捺印する行爲も、豫審判事が犯人を訊問する行爲も、外交官が外國の元首に謁見する行爲も、稅務官吏が課稅物件を調査する行爲も、電信技手が打電する行爲も、ひとしなみに政治的行爲としてみとめられるのである。けれども元首とか、中央政府とか、議會とか云つた様な特殊の機關の活動に關聯して政治といふ概念が用ひられるのが通常である。そして此これらの機關の活動についても、その或るものは政治的活動であるとされ、他のものは非政治的活動であるとされるのである。勿論此これらの機關は、すべての國家機關の中で最も高い階級にあり、中心的な地位を占めるものであるために、實際の見地からして特に注目されると云ふ事情も存するけれど、政治の政治たる所以のものが、此これらの機關において特に明確に認識されるといふ事情の存することが推測され得るのである。そして此これらの機關の中でも特に議會の活動及びそれに關聯する諸種の現象が、最も典型的なる政治現象として視られるのが、近代の文明諸國の社會に

における普遍的な事實である。この事實は、議會といふ現象において、政治現象の凝聚せる形態が經驗的にあたへられてゐることを暗示するものであり、従つて政治現象の本質を把握する上に議會の現象に着眼することが望ましく考へられるのである。

前に述べたやうに、私は政治現象の成立を國家又はその他の公法的團體の活動範圍に限定的に關聯せしめる見解を排して、その他の團體、例へば宗教團體や、勞働團體や、産業組合や、株式會社や、氏族や、家族や、教育團體や、社交團體や、慈善事業團體や、學術的團體やの活動範圍においても、ひとしく政治現象を認識し得るものと觀るのが、論理的に正しい見解であると信ずる者である。だから政治現象は國家（及びその他の公法的團體）において、殊にその議會において、比較的にも最も顯著な形態において認識されることは云ふものゝ、右に擧げたやうな各種の團體の場合においても、假令國家の場合におけるほど顯著でないにもせよ、政治現象を認識し得ると考へるのである。そして此れらの團體についても合議體の制度が行はれてゐる場合には、その合議體即ち廣義における議會の現象において、比較的にも最も顯著に政治現象を觀取し得ると思ふ。例へば宗教團體における宗門の會議だとか、勞働組合における總會又は委員會だとかにおいて、その適例を發見するのである。

五 文化現象としての政治現象

政治現象は文化現象の一種類であることを豫想する以上、政治現象の論理的内容は文化現象一般の論理的内容によつて制約されざるを得ず、それ故、政治現象の本質の検討は、かやうな論理的制約關係を念頭に留めつゝ行はれることを要するのである。

論理的見地から觀ると、文化現象の成立には、客觀的價値の存立が豫想される。即ち何等か特定の客觀的價値の存立することが前提され、その客觀的價値との關係において如何なる性狀を提示するかによつて、經驗の世界における或る種類の文化現象の成立は可能とされるのである。しかもこの場合に單に客觀的價値と經驗的實在とが互ひに關係せしめられると云ふのではなくて、客觀的價値の實現又は保存に向けられた人格者の自覺的活動といふ觀念が、客觀的價値の觀念と經驗的實在の觀念とをして互ひに論理的に關係されしめる所の楔子たるのでなければならぬ。事實的關係について言へば、經驗的實在の中に存在を託する人格者の自覺のうちに、經驗的實在を超越して存立する客觀的價値の表象が把握され、この表象にみちびかれて人格者が活動することにより、客觀的價値が顯現される過程において、諸々の文化現象は成り立つのである。

文化現象は一般にかうした普遍的構造をもつのであつて、個々の種類の文化現象に特有なる構

造は、その關係せしめられる所の客觀的價值の内容の個性によつて制約されるのである。尤もこの關係は論理的關係を意味するのであつて、事實的關係から言へば、吾々は個々の種類の文化現象の構造を経験的に考察し、其れからしてその特殊の文化現象と關聯する客觀的價值の内容の特殊性を觀照する機縁をあたへられるのである。政治現象の場合について言へば、人格者の自覺的活動を通じて特殊の價值(又は反價值)が經驗の世界の上に顯現される過程の一つとして、政治現象も亦理會されなければならぬ。そして政治現象をして他の諸々の文化現象から區別され得しめる所の客觀的價值の個性的内容との關係からして、政治現象の政治現象として有する獨自の構造が闡明されることを要するわけである。

文化的生活の概念を純粹なる論理的意義において考へるときは、あらゆる文化的生活は其れに特有なる使命——人間に課せられた特有なる使命が人間によつて成就される過程に他ならぬ。文化の一種別としての政治も斯かる過程の一つとしてその本質を理會されることを要する。而して前述の如く政治現象の典型的なるものとして廣義における議會の現象を擧げることが能きとすれば、政治に課せられた獨自の使命の遂行との關係からして、この典型的政治現象の構造を吟味することが望ましいわけであり、そして斯やうな吟味の結果が、政治現象の本質に關する理會を可能ならしめることを期す可きである。(未完)